HIROSHIMA 広島のビジネスの発展を図る
2017 NO.104

産振構NEWS

“スポーツ”×“健康”をキーワードに、新しい事業分野に乗り出した「世界のミカサ」

代表取締役社長 佐伯 祐二氏
株式会社ミカサ

広島でガンバル企業 p1

西日本最大級の溶融亜鉛めっき設備を活かし中小の企業間連携で新しいものづくりの道を拓く

代表取締役社長 圓光 幸治氏
圓光産業株式会社

広島でガンバル企業 p3

NEW

スマホで簡単!!
動画を見よう!
使い方はP.8へ

特集 チーム型支援

～トップレベルの専門家が御社のために
支援チームをつくり機動的にビジネスサポート～

リポート

■「インドネシア視察研修」事業を実施
■「スリランカ視察研修」に先立ちセミナーを開催
■販路開拓の支援!!
～広島生まれの「優れモノ」を一堂に取り揃え全国へ発信～
■「新型ミニバンのベンチマーキング活動を実施」
■医療機器の製造に関するアジア最大級の展示会
「Medtec Japan 2017」への出展

インフォメーション

■平成29年度「中国ビジネスセミナー」(全4回)のご案内
■創業に関する総合支援窓口
～ひろしま創業サポートセンター～
■平成29年度人材育成支援セミナーのご案内
～期待される技術人材をめざして～
■第5期 福山会場 イノベーションインストラクター育成塾
(現場改善人材育成講座)のご案内

ひろしま産業振興機構ニュース
https://www.hiwave.or.jp/

左から松野修三係長、佐伯祐二社長、小川龍太郎執行役員。

広島で HIROSHIMA ガンバル企業

“スポーツ”×“健康”をキーワードに、新しい事業分野に乗り出した「世界のミカサ」

株式会社ミカサ

代表取締役社長 佐伯祐二（さえきゆうじ）氏

■ 本社・工場　広島市安佐北区安佐町久地1番地
■ 創　　業　1917（大正6）年
■ 事業内容　ボール製造・販売・船舶用軸受け等製造

バレーボールで圧倒的なブランド力をもつ競技用ボールメーカーであり、船舶やポンプに用いられる水中軸受では国内トップシェアを誇る株式会社ミカサ。近年はボール製造技術を活かしてユニークな健康サポート用品を開発し、注目を集めている。2017年5月に創業100周年を迎えた老舗メーカーが挑む新事業の狙いや今後の展望を聞いた。

1950年代から世界に通用するボールづくりを志向

ミカサの源流は、1917年に現在の広島市西区楠木町で創業した「増田ゴム工業所」。ゴムの履物やリヤカーのタイヤなどを作っていたが、1930年代に空気を入れる穴（ゴムバルブ）を付けた縫い目の無いゴムボールの製法を考案し、特許を取得している。それまで球技で使う大きいボールは、現在もラグビーボールの表面の縫い目の意匠にあるような、空気を入れる口を内部に押し込んで紐で結ぶ方式だったという。

その後戦時統制下で5業者が合弁して会社組織化。1950年社名を「明星ゴム工業」と改称し、戦後のスポーツ振興で需要が高まっていた運動用ボール製造を再開した。

「やるなら世界に通用するものを作ろう」と、同社は地元広島で盛んだったものの当時は「国民的な人気」とまではいえなかったバレーボールに的を絞って研究改良に注力。その結果、1964年の東京オリンピックで採用され、1969年には国際バレーボール連盟（FIVB）から国際大会試合球として認定を受ける。奇しくも“東洋の魔女”と呼ばれた日本女子バレー選手の金メダル獲得、さらには数々のバレーボール人気漫画の影響で空前のバレーボールブームが巻き起こり、ボールは飛ぶように売れた。

「かつてのボールは変形を防ぎ、耐久性を高めるためゴムチューブの上に手作業で布を貼っていましたが、当社は世界で初めてゴムチューブの上に細く丈夫な糸を幾重にも巻く構造を採用しました。これによって真球度が飛躍的にアップした上、機械化とそのデジタル制御が可能になり、生産効率が大幅に向上したことが大きな強みでした」。佐伯祐二社長がそう話すように、同社は独自の技術で日本を代表する競技用ボールメーカーへと成長していく。特にバレーボールは品質と性能をどんどん進化させて歴代オリンピックやワールドカップなどに用いられ、世界的な知名度を獲得。北京オリンピックから試合球となった『MVA200』は、最新テクノロジーを駆使して汗に左右されない高度なコントロール性を実現した傑作で、2020年の東京オリンピックでも採用が決定している。

その他、構造の違う野球ボール以外の競技用ボールを製造しており、サッカーボールは全日本大学サッカー連盟の公式球に採用されている。

デジタル制御でゴムチューブに糸を巻く工程。プログラムの調整を緻密に行い温度・湿度の変化に対応。

「美ストレッチボール」開発に携わった社員の皆さん

現在製造している競技用ボールは種目別で約15種類。

2年がかりで開発したバレーボール「MVA200」。
最終工程は手作業で2色の表皮パネル8枚を組み合わせ完成する。

工業用品の部門でも卓越した技術力を発揮

また同社が戦後、事業のもう1つの柱としたのが、船舶のエンジンとプロペラをつなぐ推進軸の滑らかな回転を支える水中軸受などの工業用品だ。ニッチな分野に着目し、特色ある技術や製品を打ち出す戦略はボール事業と同じ。水中軸受の開発は1970年代から取り組み、強固で長期安定性を持つゴム軸受のほか、軸の加重を分散させるゴムと摩擦を減らすためフッ素樹脂を組み合わせて使う技術を考案している。

発電所の冷却水用ポンプなどにも用いられる同社の水中軸受はすべて水を潤滑剤として使用する水潤滑方式。船舶推進軸系の軸受はこれまで油潤滑方式が主流で、水潤滑の軸受は小中型船に限られていたが、大型船にも対応可能なフッ素樹脂を使った軸受の開発で、南極観測船「しらせ」や15万トン級のクルーズ客船にも採用されているという。「さらに近年は世界的に環境規制が厳しくなっていることから、油漏洩による海洋汚染の心配がなく環境に優しい水潤滑方式が再評価されています」と佐伯社長は胸を張る。

蓄積したボール技術を健康分野に応用した新製品

2012年、ミカサは広島大学医学部と共同開発した高齢者向けのトレーニングボール「ひとこぶ楽だ」を発表。同大学の新技術説明会で高齢者の背筋を強化する器具の研究報告を聞き、ボールを活用できないかと提案したのが産学連携のきっかけだったという。同社のコーポレートスローガンは「スポーツや運動を日常に取り入れて健康を保ち、より長く豊かで楽しい人生が送れるように」という思いを込めた“Sports every day!”。少子化の進展でボールの受注は緩やかな減少傾向にあることから、これを機に健康サポート用品事業を立ち上げた。

「ひとこぶ楽だ」はマスコミに注目され大きな反響があったものの、品質にこだわりコストが高くなったことや販売戦略など発売後に見えてきた課題は多く、続く第2弾はひろしま産業振興機構の「チーム型支援」を受けて開発に着手。マーケティングの専門家の実践的なサポートを受けながら約1年をかけて試作や協議を重ね完成した、産後の女性のための「美ストレッチボール」を、2016年4月から自社ウェブ等で販売している。「具体的なマーケティング手法の知見を得たことや、何より様々な分野にネットワークが広がったことはマーケティングなどの専門部署をもたない企業にとって大きな資産です」と開発に携わった小川龍太郎執行役員。佐伯社長も「時間はかかるでしょうが、この製品開発の過程で得た経験をもとに一般消費者向け製品の戦略構築などを継続し、ものづくりの幅を広げて、これからのミカサの屋台骨になる第3の柱を育てていきたいと思っています」とさらなる事業展開に意欲をみせる。今年で創業100年。それはミカサのたゆまぬ努力と挑戦の歴史だ。

バレーボール製造の様子

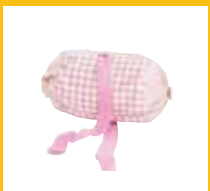
運動を日常に取り入れ、楽しく健康を維持する新製品

ひとこぶ楽だ

背筋力が弱って背中が曲がり、腰痛などに悩まされがちな高齢者のために開発されたトレーニングボール。ベルトでボールを背中に固定し、座ったまま背中でボールを押すだけで気持ちよく、安全に背筋力を強化できる優れものだ。

美ストレッチボール

産後体型が戻らない、骨盤を締めるコルセットが苦手、赤ちゃんを抱くので肩が凝るといった悩みを、このボールを使った簡単なヨガやストレッチで解消し、カラダの状態を整える。コンパクトサイズでカバー付きなので、リビング等に置いても邪魔にならず、違和感のないデザインは嬉しいところ。



溶融亜鉛めっき加工の様子

広島で HIROSHIMA ガンバル企業

西日本最大級の溶融亜鉛めっき設備を活かし 中小の企業間連携で新しいものづくりの道を拓く

圓光産業株式会社

代表取締役社長 圓光幸治（えんこうこうじ）氏

- 本社・工場　広島県尾道市因島重井町474番地-25
- 創業　1962（昭和37）年
- 事業内容　溶融亜鉛めっき、リン酸処理皮膜
  各種鋼構造物の設計製作並びに現地据付工事

明治時代から「造船の島」として栄えた因島は、造船を支える舶用工業の集積地でもある。
溶融亜鉛めっき加工を手がける圓光産業もその一つだ。
造船業界の好不況の波を乗り越えるためビジネスフィールドを広げ、経営基盤の強化を図ってきた同社の歩みを紹介する。

造船の島で育まれた 溶融亜鉛めっき技術

クレーンで吊り下げられた鋼材が巨大なめっき槽にゆっくりと浸されていく。めっき槽の中は400℃以上の高温で溶かした約650トンの亜鉛。時折激しい音と共に火花や亜鉛の飛沫が散り、息をのむ迫力だ。数分後、再び引き上げられていく鋼材は亜鉛の被膜を纏い、キラキラと美しい光沢を放つ。これが鉄鋼製品に対する最も優れた防錆法といわれる「溶融亜鉛めっき」だ。

圓光産業株式会社の創業は日本が世界一の造船国となり、業界をけん引する因島の工場が活況を呈していた1962年。戦後まもなく木造船の船釘や杭を作る鉄工所からスタートし、やがて大型船のパイプのめっきを手がけるようになったという。「当初は小さなめっき釜にパイプを入れ、ヤットコという工具で掴んで引っ張り上げ、海水に漬けて冷やしていたそうです。今思えば船釘からめっき加工に転じた父は慧眼でした」と社長の圓光幸治氏は往時を偲ぶ。

船舶に使われるパイプは1隻で6千本から1万本といわれ、その約半数が防食のためめっき処理される。仕事は途絶えることがなく、船体ブロックを造船所外で製造する全国初の施設として整備された因島鉄工団地に工場を新設し、右肩上がりで業績を伸ばしていった。ところが1973年のオイルショックに続く造船業界の不況で、1980年代半ばには因島工場での新規造船事業から撤退する企業もあった。「島が沈む」とまでいわれたこの難局を乗り越えるため、同社は日本工業規格（JIS）認証工場の表示許可を受けるとともに、造船以外の分野にも活路を求めた。

東京スカイツリーの 巨大制震装置にも挑む

当時専務だった圓光社長ら役員が率先垂範で新規顧客開拓に飛び回る姿に、社員も奮起。団地内でも5社が廃業するほど影響は深刻

めっき工程前の洗浄用の塩酸濃度を厳密にチェック

本社社屋

始業時の様子

溶融亜鉛めっき鉄筋普及に中心となり取り組む圓光智巳専務

東京スカイツリーの先端に設置された
重さ100トンの制振装置のめっき加工を手がけた。

だったが、熱意ある営業活動で山陽新幹線や山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道など国家プロジェクトの仕事を受注し、全社一丸となってこれをやり遂げた。

同社の強みは、巨大な船舶用の鋼材をめっき処理するため、全長14.5m、幅2.1m、深さ3.0mという西日本最大級のめっき槽を備えており、船舶以外の大型構造物にも対応できることだ。商業ビルやプラント設備、港湾関係設備など時代と共に大型化・高度化・複雑化する構造物に挑み、近年では東京スカイツリーの先端に設置された重さ100トンの制振装置のめっき加工も手がけた。2000年に入って造船ブームが再来したが、同社は造船業界の景況に影響を受けない経営の基盤強化を図るため、「陸の仕事」の比重を徐々に高めている。

「関連会社を含めると従業員が約100名、その家族を含めると300名の生活がかかっているわけですから責任は重大。長期的に安定した売り上げを得るためには、お客様との信頼関係、顧客満足が何より大事と考えています」と圓光社長。品質管理ではISO9001認証（システム確立）とJIS認証（製品保証）を両立。顧客との関係では、製品設計の段階から参画するといった丁寧な事前打合せや、社員の協力のもと短納期の確実な履行に取り組むなど、どんなニーズにも親身に一生懸命応えるという基本をとことん徹底しているという。

地域社会に
新しい活力をもたらす事業に

溶融亜鉛めっきのもつ可能性について、圓光社長は「高度成長期に建設された鉄骨鉄筋コンクリート建造物の劣化が社会的な問題となっており、建て替えや増設の際に溶融亜鉛めっきを採用される工場が増えてきました。インフラの長寿化に役立つ社会的に意義ある取り組みとして、溶融亜鉛めっき鉄筋の普及に向け、業界を挙げてJIS規格化を目指しています」と言う。さらに「当社の関連会社には協同組合福山金属センターの一員で、ステンレス鋼の洗浄などを得意とする光伸産業※もありますから、両社のネットワークを活用して相互補完的に受注対応することが可能。将来的には設計・製作・表面処理まで一括受注できる体制を整え、全国から仕事が集まる『めっきのメッカ』として地域に新たな雇用と活力を生み出し、造船最盛期の半分まで人口が減少したこの因島や備後の人口・人材流出に歯止めをかけたい」と自社のみならず、地域についての展望を語る。

2016年、圓光産業は戦略として経営資源を相互に補完し、多様化する発注ニーズに対応すべくひろしま産業振興機構企画の企業連携グループ「ヤマトプロジェクト」に参画した。「ヤマトプロジェクト」は、各分野で高度な技術力・ノウハウを持つ県内中小企業20社で構成されるソリューション・ネットワークだ。めっき分野で同様の試みを構想していた圓光社長は「共同受注グループの作り方や新規開拓のノウハウ、現場管理者の研修など学ぶことは非常に多い」と目を輝かせる。圓光産業の将来構想が地域のものづくり企業の在り方の一つのモデルとなって地域社会に新しい活力をもたらすことを期待したい。

※本誌企業PRに同社の「金属製品の化学洗浄」を掲載しています。

溶融亜鉛めっきの様子

インフラの長寿化の鍵となる溶融亜鉛めっき鉄筋

高度成長期に沿岸部に建てられた鉄筋コンクリートの建物の多くが、鉄筋の腐食でコンクリートが剥がれ落ちるなど劣化が進んでいる。そこで注目されているのが、海外では既に多数の施工実績がある「溶融亜鉛めっき鉄筋」だ。現在日本で用いられている鉄筋の防食素材はステンレス鉄筋とエポキシ樹脂鉄筋のみ。普通の鉄筋と同じように取扱うことができ、防錆効果が高いのでメンテナンスの必要がほとんどない溶融亜鉛めっき鉄筋の普及のため、土木・建築の両分野で設計施工指針の改訂などが検討されている。

めっき鉄筋を使用した建築物の例
オペラハウス
（オーストラリア）

鉄筋コンクリート腐食例

出典:一般社団法人日本溶融亜鉛鍍金協会

特集

チーム型支援 ～トップレベルの専門家が御社のために支援チームをつくり機動的にビジネスサポート～

広島県内の意欲ある中小企業を対象に、全国トップレベルのプロフェッショナル達による御社のための支援チームをつくり、“売れる商品･儲かるしくみ”を生み出すための支援を行います！

こんな方に！

- 新商品･新サービスを開発したが、どこに、誰に、どんな方法で売っていけばいいのか。
- 今ある商品･サービスをブランド化して、全国･海外のお客様にもっと知ってもらいたい。
- 新商品を作ったが、他社や大手に真似されないためにどうしたらいいのか。
- 商品をもっと効率よく作りたい。コストを下げて競争力をつけたい。

支援ステージ（商品のマーケティング･セールス･ブランディング支援の場合）

商品アイディア → 開　発 → 試　作 → 市場開発 → 商品生産 → 販　売

（試作～販売：支援ステージ）

6つの機能

マーケティング
市場調査の実施、販売促進計画の企画･立案等

ブランディング
商品ブランド、会社CIなどの立案支援等

知的財産戦略
特許･商標等の取得支援、知財の活用戦略支援等

セールス
販路チャネルの選択･新規開拓、販売促進活動の実務支援等

デザイン
商品･工業デザイン戦略、パッケージ、グラフィック支援等

経営戦略･生産管理
品質向上、コスト削減、生産性改善支援等

6つの特徴

支援費用の9割負担
支援チームのサポート費用（プロフェッショナルへの謝金）は、ひろしま産振構が9割を負担。

支援期間は最長1年
年度をはさんでも
最長12ヶ月の支援を受けられます。

他支援策との連携支援
既に助成を受けた事業の強化など、ひろしま産振構の総合的なツールで連携的な支援を行います。

全国トップレベルの支援チーム
試作･デザイン･市場開発･販売促進･生産管理から知的財産戦略まで、トップレベルのプロフェッショナル集団が実践支援。

企業毎にカスタマイズ
パッケージ型の支援でなく、企業毎のテーマに応じてカスタマイズ対応。

いつでも受付
応募は、随時。いつでもお申し込みください。

申込要件

（1）広島県内の中小企業であること。（みなし大企業は除く。）
（2）代表者のほか、開発･営業部署等の専任の担当者も事業に参画できる体制を整えられること。
（3）事業を推進するにあたり、営業･販売促進費用等の実費相当負担が可能であること。
（4）上記のほか、次の事項について、原則、満たしていること。
･原理確認が終了した試作品、または完成した製品について、新たな市場参入等、成長意欲を有すること。
･原価管理、生産管理等の手法を用いて経営改善の意欲があること。

●支援企業募集中（随時）
詳しくは当財団WEBをご覧ください！　チーム型支援　検索

お問い合わせ　中小企業･ベンチャー総合支援センター　起業化･事業化支援担当
TEL:082-240-7701　FAX:082-249-3232　E-mail:team-shien@hiwave.or.jp

事例1 ヤマトフーズ株式会社

■広島市　■食の総合商社　■資本金 1,000万円

レモンの魅力を最大限に引き出し発信!「瀬戸内レモン農園」のブランディング

支援分野
- レモン関連商品の統一ブランド「瀬戸内レモン農園」のブランディング
- ブランドコンセプトの作成･ブランドブック等の販売促進ツール作成

支援成果
- 「瀬戸内レモン農園」という統一ブランドの確立により、単一商品でなくブランド全体としての発信が可能となったほか、ギフト商品開発を行った。瀬戸内レモン農園関連商品の売上が支援後約4.5倍に増加。

【支援対象企業の声】
（ヤマトフーズ㈱ 代表取締役社長 串山敬太）

弊社は、自社グループ農園でのレモン栽培から、レモンを使った商品の企画･開発、販売まで行っています。日本一の生産量を誇る広島レモンの素晴らしさを全国に広めたいとの想いから、弊社では初めてのレモンを使った商品の開発を行い、平成22年に発売したのが「レモスコ（辛味調味料）」です。「レモンを皮ごと丸ごと生かす」というコンセプトのもと商品づくりを行い、レモン関連商品を発信する統一ブランド「瀬戸内レモン農園」を立ち上げました。

チーム型支援では、専門家の的確なご指導のもと、ブランドを発信するツールが出来上がり、レモンといったら「瀬戸内レモン農園」と認知してもらえるような取り組みへの整備ができました。お陰さまで弊社商品のお取扱いのある店舗にてコーナー展開も増えてきております。今後も「瀬戸内レモン農園」ブランドを確立し、広島レモンの持つ魅力を全国に発信していきたいと考えております。

レモスコ

レモスコRED

レモニオンソース

熟成藻塩レモン

レモ缶
ひろしま牡蠣のオリーブオイル漬け

レモ缶
ひろしま小鰯のアヒージョ

瀬戸内レモン農園セット

事例2 坂本デニム株式会社

■福山市　■デニム糸染色加工　■資本金 9,500万円

細番手糸の染色加工における能率向上

支援分野
- ムダ･不備を見つける生産管理手法の導入による現行生産ラインの効率化･コストダウン
- 「細番手糸のインディゴ染め」加工に関する生産管理システムの構築

支援成果
- 日別順序計画を立て、作業者が各自の能率を確認することにより、作業者の意識改善、能率が向上
  支援後平均能率約4割アップ。
- 前後工程における不具合の“見える化”により、異常の状況や原因の把握ができるようになり、不具合改善のみならず、人員のバックアップ体制もスムーズに取れるようになった。

【主な工程】

整　　経	約500本の糸をロープ状に巻き取る
染　　色	弊社独自のロープ染色機で糸を染める
分　　織	染色で染めた糸を専用のビームに巻き取る
糊　　付	分織で巻き取った糸に糊を付ける

【支援対象企業の声】（坂本デニム㈱ 代表取締役社長 坂本量一）

糸染色加工する細番手の多品種少ロット化が進む中、これまでの各作業者の技能に頼らざるを得ない感覚的な能率からの脱却が喫緊の課題となっていました。

チーム型支援を通じて、データの重要性を認識することにより、作業者が各自の能率を確認し合えるようになったことで、作業者の意識改善が向上し、異常原因の把握、工程間の連携や不具合情報等が全社で共有できるようになり、番手･糸の種類･素材にとらわれず生産計画が立てられるようになりました。

このように、今回支援を受けた一工程（分織）での能率向上といったことが、前後の工程改善へ波及し、ひいては営業部門も含めた全社的生産性の向上と生産管理手法の進歩にまで至りました。

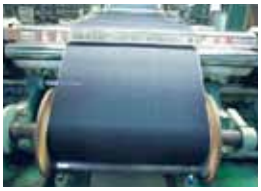
弊社にとりまして、大きなソフト面での基盤整備ができたと感謝しております。

弊社独自で開発した「エコ染色」（染料を洗浄する際、洗浄薬品や温水を使わないことで素材の負荷を低減し、コストも削減）を通じて、品質の良いジャパンデニムのブランド力を世界へ発信できるよう更なる努力を続けて参ります。

整経（せいけい）

染色（せんしょく）

ネックとなっていた分織工程を改善


糊付（のりつけ）

分織（ぶんせん）

REPORT

ひろしま産業振興機構が実施・協力した事業の概要をご報告します。

REPORT 1 「インドネシア視察研修」事業を実施

国際ビジネス支援センターでは海外での事業展開先として関心の高い地域の市場等投資環境を調査するため、視察研修団派遣を行っています。平成28年度はインドネシアを訪問し、工業団地、日系進出企業、商業施設、道路・港湾等への視察を行いました。

実際に視察・訪問し話を聞くことで、インドネシアにおける現状と課題について理解を深め、県内中小企業の今後の製造拠点、販売網、マーケット等の投資の可能性を探り、また現地との人脈作りにつなげました。

■日　　時　平成29年1月15日(日)～21日(土)
■参 加 者 数　12社・団体、19人　■訪 問 国　インドネシア(ジャカルタ、パタム島経済特区)
■視 察 先 等

【日系進出企業】
- ·KEWPIE(キューピー(株)／食品製造)
- ·SWIF ASIA(三建産業グループ／工業機械製造)
- ·ITOMOL INDONESIA(イトモル(株)／自動車部品製造)
- ·JMS BATAM((株)ジェイ エム エス／医療機器製造)
- ·Marimo Property((株)マリモ／サービスマンション)
- ·AEON Mall BSD(イオン／商業施設)

【インフラ設備等】
- ·タンジュンプリオク港(港湾施設)　·GIIC(工業団地)
- ·KABIL INDUSTRIAL ESTATE(工業団地)
- ·Batam Indonesia Free zone authority(バタム開発庁)

【その他】
- ·現地進出日系企業との交流レセプション
- ·ジェトロジャカルタでのブリーフィング

(ジャカルタ市内)

(タンジュンプリオク港)

参加者の感想

- ·ジャカルタ周辺の道路渋滞、輸送量に追いつかない港湾設備等の不十分なインフラや、輸入規制などの制約などはあるが、今後も人口が増加し中間層も増大しており、大きな活力を感じる国である。
- ·首都ジャカルタを中心に活気に溢れている。まずは大ジャカルタエリアの3千万人を相手にした、商品、サービスの提供を目指してはどうか。
- ·イスラム教が生活に強く関与する社会への興味を感じたなど。

REPORT 2 「スリランカ視察研修」に先立ちセミナーを開催

今年度はスリランカに視察研修団を派遣します。派遣に先立ち、ジェトロ現地コロンボ所長小濱和彦氏をお迎えし、スリランカの今とその魅力についてご紹介いただきました。

■日　　時　平成29年4月25日(火)13:30～14:50
■場　　所　広島県情報プラザ
■参 加 者 数　14名(個別相談会3社)

■セミナーの内容

スリランカの政治経済の現況や、ビジネスを進める上でのアドバイス等が説明され参加者のスリランカへの高い関心を集めていました。

【スリランカでのビジネスのポイント】
- ·親日国であり、政治、社会情勢、治安も安定
- ·1人当りGDPはインドネシア等を上回る水準で消費市場が拡大。
- ·安い人件費と急伸するインフラ整備。
- ·ビジネスモデルは、「資源を活用した対日事業」、「市場開拓事業」、「アウトソーシング」等。

募集中:スリランカ視察研修への参加者を募集しています。

高い経済成長率、地政学的重要性等から、さらなる経済成長の潜在性をもつスリランカへの視察研修に、ぜひご参加ください。

■日　　時　平成29年8月27日(日)～8月31日(木)
■対　象　国　スリランカ民主社会主義共和国コロンボ及び周辺
■募 集 人 員　20名程度　■申 込 締 切　平成29年7月12日(水)

[お問い合わせ]
国際ビジネス支援センター　TEL 082-248-1400　FAX 082-242-8628

REPORT 3 販路開拓の支援!!

～広島生まれの「優れモノ」を一堂に取り揃え全国へ発信～

中小企業・ベンチャー総合支援センター起業化・事業化支援担当では、「販売戦略塾」や「チーム型支援」をはじめ各種施策と連動した取組みとして、県内商品が強力な競合相手となる大手商品・ブランド品に埋没しないよう、県内事業者への個別支援だけでなく、県内商品をある程度集団化した上での販路開拓支援を行うとともに、集団化した商品全体のブランド価値向上等を目的として、販路開拓の共通屋号「ヒロシマ・デパートメント」を冠し、首都圏での専門見本市への出展支援や情報発信を継続実施しています。

今回のテーマは「a view LifeStyle SETOUCHI」。"東洋の地中海"といわれる穏やかな海と自然、豊かな多島で育まれた食品からファッション雑貨に至るまでの良質な"Hiroshima made"の商品を発信しました。

■展 示 会　第83回東京インターナショナル・ギフト・ショー春2017
■会　　期　平成29年2月8日(水)～10日(金)
■会　　場　東京ビッグサイト(東京都江東区有明)
■出展商品　15社　121アイテム

東京インターナショナル・ギフトショー

■展 示 会　第51回スーパーマーケット・トレードショー
■会　　期　平成29年2月15日(水)～17日(金)
■会　　場　幕張メッセ(千葉県千葉市美浜区)
■出展商品　14社　42アイテム

スーパーマーケット・トレードショー

[お問い合わせ]
中小企業・ベンチャー総合支援センター 起業化・事業化支援担当　TEL:082-240-7701　FAX:082-249-3232　E-mail:sien-center@hiwave.or.jp

REPORT 4 「新型ミニバンのベンチマーキング活動を実施」

カーテクノロジー革新センターでは、平成28年8月に発売された新型ミニバン日産セレナのベンチマーキング活動を行いました。納車後、各企業で車両評価を実施、同車の注目装備であるProPILOT（同一車線自動運転システム）には、高い関心が集まりました。

1月24日から31日にかけて、広島国際学院大学自動車短期大学部（広島市安芸区上瀬野）において担当教員の指導のもと、専攻科の学生10名により車の分解が実施されました。

業界新聞社の取材もあり、産学官連携活動の好例と受け取られています。分解作業、部品展示の見学には県内外の企業、団体から延べ約340名の方が参加し、熱心に見学されていました。

※ベンチマーキング活動に参加希望の際は、「ベンチマーキングセンター利活用協議会」にご加入ください（入会無料）。

［お問い合わせ］
カーテクノロジー革新センター
TEL 082-240-7713　FAX 082-242-7709
E-mail:atic@hiwave.or.jp

REPORT 5 医療機器の製造に関するアジア最大級の展示会「Medtec Japan 2017」への出展

医工連携推進センターでは、医療機器関連の分野において、販路開拓支援事業の一環として、県内企業と他県企業や自治体等との新たな事業展開や交流等を目指し、同時に広島県企業の知名度や医療関連産業の拡大の推進を図るため、東京ビッグサイトで開催された「Medtec Japan 2017」に広島県内企業8社と共に参加しました。

今後は事後フォローとして、参加された企業の皆様と現地の商談状況や今後の展開などについて、意見交換等により情報を共有し、企業の皆様が必要とされている支援を行うことで、効果的な販路拡大に繋げて参ります。

【会　　期】 平成29年4月19日（水）～21日（金）
【会　　場】 東京ビッグサイト

【県内出展企業】8社

株式会社石井表記 ・液晶表示システム ・スイッチパネル ・シルク印刷　・加飾印刷　・フィルム成形	**株式会社イノテック** 製販 製造 販売 ・ソフト開発販売 ・ハードウェア設計 ・光学機器販売	**株式会社織田鐵工所** ISO9001 ・精密機械部品製造販売、分析装置精密部品、鉄道車両部品、医療機器部品、各種産業機械部品ほか	**株式会社シギヤ精機製作所** ・眼科医療機器販売 ・金属工作機械製造販売
株式会社システムフレンド ・システム開発の技術を、MMV鑑（AKIRA）をはじめとした、医療・福祉の分野で展開	**新中央工業株式会社** 製造 ・機械加工～表面処理まで一貫生産可能。 ・独自表面処理に特化。	**トーヨーエイック株式会社** 製造 ・工作機械、自動車部品などの製造販売 ・ハードコーディングの受託加工、既存技術の医療分野への展開	**株式会社橋川製作所** ・非接触で高品位高精度対応の放電加工 ・医療機器分野にも活用

［お問い合わせ］
ひろしま医工連携推進センター
TEL 082-240-7709　FAX 082-242-8628

マークのある写真をケータイで読み取って
動画を見よう！

インストール後、アプリを起動し画像をスキャン。認識されるとコンテンツが流れます。

104号は2017年9月まで公開！

AR利用方法
動画を見るにはCOCOAR2アプリをダウンロード（無料）
※「COCOAR2」のご使用は、Wi-Fi、LTE環境を推奨しています。回線混雑状態等により画像の認識や動画再生が遅くなる場合があります。スマートフォンのみ対応しています。

iPhoneの場合
右記の2次元コードを読み取りアプリをダウンロードしてください。
または…
アプリ検索　COCOAR2　検索

Androidの場合
右記の2次元コードを読み取りアプリをダウンロードしてください。
または…
アプリ検索　COCOAR2　検索

INFORMATION

申込み受付中!!

受講料無料

平成29年度「中国ビジネスセミナー」（全4回）のご案内

13億人を超える人口を誇る中国は、市場として非常に魅力的であり、また、近年ではサービス産業やネット通販、医療・介護など幅広い分野で新たなビジネスチャンスが生まれています。

当セミナーは、「中国進出に向けて中国ビジネスを学びたい」また、「中国ビジネスで課題を抱えている」などのご要望やお悩みにお応えするため、中国経済の最新情報や県内企業の具体的な取組事例を全4回シリーズでご紹介いたします。

第1回中国ビジネスセミナーの概要

日時・場所		講演テーマ	講師
平成29年 7月10日（月） 13:30～17:00 （広島商工会議所）	第一部	「中国におけるビジネス展開について」	西川ゴム工業㈱ 取締役グローバル統括本部長 小川 秀樹 氏
	第二部	「中国最新事情 ～中国経済、ビジネス、政策動向などホットな情報～」	㈱チャイナワーク（※） 専務取締役　遠藤 誠 氏 （※）上海及び北京に事務所を有する中国に特化したコンサルタント会社。産振構「広島上海事務所」の運営にも携わる。
	相談会	【個別相談会】 中国ビジネスに関する相談にお応えします。	

第2回目は8月下旬、第3回は10月下旬、第4回は3月上旬に実施予定です。
※各回、講演会後に個別相談会（要事前申込）を実施

講演の詳細や参加申込については、当財団のウェブサイトをご確認ください。
https://www.hiwave.or.jp/event/4764/

【過去の参加者の声】
- 地場の海外進出企業の体験談が聞けたので、非常に満足でした。
- 市場、ニーズに合った商品やサービスの提供が大切だと感じました。
- とても分かりやすく、中国展開を考えるうえでためになりました。
- 中国最新事情はとても興味深く、驚くことばかりだった。

［お問い合わせ］ **国際ビジネス支援センター**　TEL 082-248-1400　E-mail：hapee@hiwave.or.jp

創業に関する総合支援窓口～ひろしま創業サポートセンター～

ひろしま創業サポートセンターは、創業や起業をお考えの皆様にご利用いただける無料の相談窓口です。男性3名・女性1名の創業マネージャーが、サポーター登録している専門家とも連携しながら、皆様の疑問や悩み・不安にお応えしますので、お気軽にお立ち寄りください。（平成28年度は500人以上の方にご利用いただきました。）

●相談受付日時

まずは、電話又はメールで、相談希望日時をご連絡ください。
平日　①10:00～　②13:00～　③15:00～　④17:30～

●相談事例

- お店を開業したいけど、何から手をつけていいかわからない。
- 事業計画書ってどのように作成すればいいの。
- 税や社会保険、必要な届出などがわからない。

≪耳より♪セミナー情報≫

㈱創研の西原裕氏が講師を務める人気の創業入門セミナー（2日コース）です！

- **7月22日（土）・8月5日（土）東広島**
- **8月26日（土）・9月9日（土）呉**

その他、最新セミナー情報は随時、ホームページ及びフェイスブックで発信中です！
https://www.facebook.com/hiroshima.sougyou.jp

［お問い合わせ］ **ひろしま創業サポートセンター**　TEL 082-240-7702　E-mail：found-support@hiwave.or.jp

受講料無料

平成29年度人材育成支援セミナーのご案内～期待される技術人材をめざして～

カーテクノロジー革新センターでは、技術開発基盤強化の支援として、各種人材育成セミナーを開催します。自動車分野における基礎知識から、製品改善、課題解決手法、ビジネススキルの向上などにご活用ください。

自動車工学基礎講座2017 ▶自動車技術を基礎から体系的に学ぶ

●開催日
[前期]6月27日(火)･28日(水)
[後期]7月26日(水)･27日(木)
(広島県情報プラザ)

受付終了

自動車全体視点から技術を考える目を養うことをねらいとします。
経験豊かな講師陣による講義に加え、カットモデルの展示やクルマづくりのプロによる特別講演など充実の内容です。

TRIZ入門講座 ▶技術的問題を解決するための思考ツールを学ぶ

●開催日
･7月7日(金)
･12月8日(金)(広島県情報プラザ)

受付中

TRIZとは…
･技術的問題を解決するための思考ツールです。
･技術的問題を解決するための着眼点とヒントを与えてくれます。
･これまでの思考の枠を破り、斬新なアイデア発想を支援します。

仕事力向上セミナーシリーズ ▶開発･設計現場で役に立つビジネススキルを学ぶ

技術者のためのコミュニケーション･スキルUP研修
プレゼンテーション研修
コーチング研修

開催予定

●開催日　2～3 月開催を予定

その他のセミナーも準備中です。詳細は下記HPにてご案内します。

VEセミナー ▶コストダウンや製品改善に役立つ創造的問題解決手法を学ぶ

VE基礎セミナー
●開催日
~~･6月15日16日(広島県情報プラザ)~~
~~･9月27日28日(広島県情報プラザ)~~
･11月16日17日(東部工業技術センター)

受付中

開発設計のVE　応用編
●開催日　･H29年1月18日･19日(広島県情報プラザ)

ご好評をいただいています「VE基礎セミナー」に加え、応用編も併せてご活用ください。

各セミナーの詳細については、カーテクノロジー革新センターのHPをご覧ください。　https://www.hiwave.or.jp/atic/

[お問い合わせ] カーテクノロジー革新センター　TEL 082-240-7713　E-mail:ve@hiwave.or.jp

申込み受付中!!

第5期 福山会場 イノベーションインストラクター育成塾（現場改善人材育成講座）のご案内

ひろしまものづくり人材育成センターでは、【品質、コスト、納期】の改善で現場の力を高め企業収益を上げるための、現場改善人材を育成する「イノベーションインストラクター育成塾」を開催します。開講は平成29年9月13日(水)の予定です。

主な特徴

① 体系的･実践的なカリキュラム(概論、理論、手法、演習)
② 実際の現場で活動し、理解を深める現場実習
③ 様々な業種の方との交流

募集概要

●開催期間 平成29年9月13日(水)～11月29日(水)間の18日
　　改善報告会 平成30年2月16日(金)
●場　　所 福山市ものづくり交流館　現場実習企業
●対　　象 ものづくりの知識･経験を有する現場リーダー、経営幹部の方
●定　　員 12名
●募集締切 平成29年8月8日(火)必着

※座学演習の様子

※現場実習の様子

[お問い合わせ] ひろしまものづくり人材育成センター　TEL 082-240-7716　E-mail:h-jinzai@hiwave.or.jp

企業PR

このコーナーは、会員相互のコミュニケーション、ビジネスにご活用いただくスペースです。新商品、新企画、新規サービスなどの告知やPRにぜひご活用ください。

切削工具の高性能・長寿命化を実現!
小ロット・特殊形状などのオーダーメイドにも対応!

切削工具の再研磨・難削材加工・特殊加工

NEW

当社ではお客様の業種・ニーズに合わせた形状を選択し、精度の高い再研磨加工を行っています。刃物形状への修正にも数多く取組み、もう使えないと判断した刃物でも、職人達の技術により、新品同様の高いポテンシャルを取り戻します。品質管理の徹底とともに短納期・柔軟性を強みとし、小ロットや特殊形状などのオーダーメイドにも対応します。製造現場における切削工具が果たすパフォーマンスを最大にすることで、"先端"から日本のものづくりの一翼を担っていきたいと考えています。

株式会社アイエスツール

〒720-0004 広島県福山市御幸町中津原1698
TEL 084-983-2755 FAX 084-983-2756
http://www.istool.jp/ E-mail:is-tool@bingonet.co.jp
[担当者名]専務取締役 宗田 隆幸

海の幸たっぷりの手造り佃煮の素

ひと味ちがう佃煮の素

NEW

いりこ、かつお削り節、ごま、塩昆布、特製たれがセットになって入っており、水や熱を一切加えず、材料を混ぜるだけで簡単に佃煮が作れます。黒酢を配合した調味たれが好評です。化学調味料不使用。いりこは瀬戸内限定で、「瀬戸内ブランド商品」に登録されました。

株式会社 カネソ22

〒720-0042 広島県福山市御船町2-2-26
TEL 084-923-0859 FAX 084-932-0859
http://www.kaneso22.co.jp E-mail:k.kobayashi@kaneso22.co.jp
[担当者名]営業部 小林 一雅

珍味処なかむらでは、広島産牡蠣を
お楽しみ頂ける商品をご用意しております

かきめし、かきしぐれ、かきれもん

NEW

広島を代表する、「かき」を年間を通じて食べていただきたい思いを込めてご紹介いたします。「かき」の食感、風味を活かして一粒一粒炊き上げております。「かきしぐれ」:ご飯、酒の肴として40年以上の定番商品です。「かきめし」:お米2合と炊いていただく「かきめし」の素です。「かきれもん」:広島産「れもん果汁」を使用した「れもん酢」漬です。単品でのお土産、景品、ご進物としてご予算に応じた詰合せもお承りいたします。

有限会社 珍味処なかむら

〒730-0805 広島県広島市中区十日市町2-5-1
TEL 082-295-6717 FAX 082-295-6718
http://www.kakimesi.com E-mail:hiroyuki-nakamura@kakimesi.com
[担当者名]営業部 中村 弘幸

高い洗浄技術で錆・汚れから機能・性能・美しさを蘇らせる

金属製品の化学洗浄

酸洗い・不動態化処理・鋳型除去等の化学洗浄を行っております。大規模な排水処理施設と大型13mのステンレス酸洗槽を活かした短納期・高品質を実現し、お客様のニーズにダイナミックにお応えいたします。また、ステンレスの他、鉄・チタン・アルミ等の化学洗浄と少ロット・短納期での各種表面処理(めっき・塗装・研磨他)も取り扱っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

光伸産業株式会社

〒721-0956 広島県福山市箕沖町99-8
TEL 084-953-8191 FAX 084-953-8147
http://www.ko-sin1970.jp E-mail:info@ko-sin1970.jp
[担当者名]代表取締役 廣田 俊之

賛助会員募集のご案内

当財団は、企業の新技術・新製品開発、創業・新事業展開、経営革新、経営基盤の強化、国際化等の取組みを総合的にバックアップする公益法人です。当財団の様々な活動は、賛助会員のご協力によって支えられており、事業の充実と県内の地域ニーズに応じた活動を展開するため、賛助会員を募集しています。賛助会員(一般、国際)に加入いただきますと、財団情報誌の無料配付や、セミナー・講演会等の優先案内・参加料の割引など、各種特典がございます。皆様のご賛同を心よりお願い申し上げます。お気軽にお問い合わせください。

お問合せ先

賛助会員(一般):総務企画グループ TEL.082-240-7715 FAX.082-242-8627
賛助会員(国際):国際ビジネス支援センター TEL.082-248-1400 FAX.082-242-8628

HIROSHIMA SANSHINKO
公益財団法人ひろしま産業振興機構
HIROSHIMA INDUSTRIAL PROMOTION ORGANIZATION
〒730-0052
広島市中区千田町三丁目7番47号 広島県情報プラザ内
TEL.082-240-7715 FAX.082-242-8627

HIROSHIMA産振機構NEWS 2017 NO.104
この印刷物は環境にやさしい植物性大豆油インキを使用しています。
この印刷物は自然保護の一環としてリサイクルペーパーを使用しています。
■発行日/平成29年6月30日
■発行者/公益財団法人 ひろしま産業振興機構
■編集・印刷/株式会社タカトープリントメディア